

# ぐんまらしいグリーン・ツーリズムの あり方について

(群馬県新グリーン・ツーリズム推進検討会まとめ)

平成16年5月

群馬県農業基盤整備課

## 本報告書について

健康的でゆとりある生活、やすらぎ、いやし、自然を求めるトレンドを背景とした都市住民のグリーン・ツーリズムに対する願望やニーズの高まりと併せて、地方で働き生活することで豊かさを実感しようとする、「ふるさと回帰」の動きが時代の大きな潮流となりつつある。

また、全国的にも、地域に元気を呼ぶグリーン・ツーリズムの成功事例が見られるようになり、農山村部を中心に、グリーン・ツーリズムの推進による地域活性化への期待が高まっている。

このような中で、尾瀬に代表される豊かな自然や貴重な伝統・文化等を有する本県において、この優れた資源を活用し、グリーン・ツーリズムを積極的に推進していくことが、群馬県全体の活性化に有効であるとの認識から、グリーン・ツーリズム関係者や学識経験者、行政関係者等からなる「群馬県新グリーン・ツーリズム推進検討会」を設置し、グリーン・ツーリズムについての基本的な考え方、とりわけ、ぐんまらしいグリーン・ツーリズムのあり方等について、フリートーキング形式で検討し、その結果を「群馬県新グリーン・ツーリズム推進検討会報告書」として取りまとめました。

グリーン・ツーリズムは、県政の柱の一つである「広い意味の観光」の一翼を担う重要な施策であり、また、本報告書の内容がグリーン・ツーリズムを推進していくための共通認識づくりに大いに役立つものと考えていることから、今後は県関係局、市町村、NPO、グリーン・ツーリズム関係者等と連携を図りながら、県全体として、具体的な施策を検討・実施していきたいと考えている。

群馬県農業基盤整備課

# 群馬県新グリーン・ツーリズム推進検討会報告書

群馬県新グリーン・ツーリズム推進検討会

## 目 次

はじめに	-----	1 頁
グリーン・ツーリズム推進の必要性	-----	1 頁
ぐんまらしいグリーン・ツーリズムのあり方について	-----	1 頁
1．グリーン・ツーリズム推進の目的	-----	1 頁
2．グリーン・ツーリズムの捉え方	-----	2 頁
(1) グリーン・ツーリズムとは	-----	2 頁
(2) 滞在、体験、交流そして定住	-----	2 頁
(3) 連携による多様なメニューの提供	-----	3 頁
(4) グリーン・ツーリズムのフィールド	-----	3 頁
3．本県におけるグリーン・ツーリズムの特徴的な取組事例	-----	4 頁
4．グリーン・ツーリズム推進の基本目標	-----	5 頁
(1) 基本目標	-----	5 頁
(2) ぐんまらしいグリーン・ツーリズムの推進に向けて	-----	6 頁
ぐんまらしいグリーン・ツーリズムの実現に向けて	-----	7 頁
1．グリーン・ツーリズム推進フロー	-----	7 頁
2．大きな潮流にしていくために	-----	8 頁
その他	-----	9 頁
1．検討会での議論の主なキーワード	-----	9 頁
2．平成15年度農林漁業体験民宿に関するアンケート調査結果 に見るグリーン・ツーリズム推進の問題点等	-----	11 頁
参考	-----	11 頁
(1) 群馬県新グリーン・ツーリズム推進検討会の設置及び運営に関する要領	-----	12 頁
(2) 群馬県新グリーン・ツーリズム推進検討会での検討経緯	-----	14 頁

## はじめに

この報告は、新グリーン・ツーリズム推進検討会として、ぐんまらしいグリーン・ツーリズムのあり方等について、平成15年11月から3回にわたって、グリーン・ツーリズム関係者や学識経験者、行政関係者等によりフリートーキング形式で検討したものをとりまとめたものです。

グリーン・ツーリズムは、都市と農山村の交流を推進するとともに、農山村地域の活性化に有効な施策・手法であり、積極的な推進が求められているため、ぐんまらしいグリーン・ツーリズムについての課題や考え方等を整理し、今後の全県的なグリーン・ツーリズムの大きな潮流の創造を目指そうとするものです。

### グリーン・ツーリズム推進の必要性

近年、社会経済環境の変化に伴い、人々の意識も心の豊かさや生活の質的向上を求めて多様化しており、健康的でゆとりある生活、やすらぎ、いやし、自然を求めるトレンドを背景に、都市の人々を中心にグリーン・ツーリズムに対する願望やニーズが高まるとともに、従来の働き方や生き方を見直し、地方で働き生活することで豊かさを実感しようとする、「ふるさと」や農山村への回帰の動きが時代の大きな潮流となりつつある。

また、全国的にも、地域に元気を呼ぶグリーン・ツーリズムの成功事例が見られるようになり、農山村部では、グリーン・ツーリズムの推進による地域活性化への多くの取組が展開されている。

県内においても、個々の民宿や農家レストランなどで先進的な取組が行われているほか、農協を中心したグリーン・ツーリズムの展開、姉妹都市提携などを基軸としたグリーン・ツーリズムの展開、行政・第3セクターなどによる受入、集落などの限定地域による共同受入、有志グループによる共同受入などの取組が行われているところである。

このように、県及び各市町村においても、個々にはグリーン・ツーリズム推進のための施策を実施してきており、また、県内の各地域・各団体等においても、グリーン・ツーリズムを実践してきているところであり、これを更に県全体として、グリーン・ツーリズムの大きな潮流にしていくことが必要である。

本県では、県政の柱の一つとして「広い意味の観光」を掲げ、群馬の様々な魅力をもう一度見つめ直し、これらを点と線、そして網のようにネットワークとして広げ、県全体が楽しめる観光立県を目指しており、「グリーン・ツーリズム」はその一翼を担う重要な施策である。

このような状況にあって、県全体として、地域の活性化に有効な施策・手法であるグリーン・ツーリズムを積極的に推進していくことが求められている。

### ぐんまらしいグリーン・ツーリズムのあり方について（基本的考え方）

#### 1. グリーン・ツーリズム推進の目的

グリーン・ツーリズムは、豊かな自然や伝統文化に根ざした地域において、都市の人々が「ゆとり、やすらぎ、いやし」を享受しようとする余暇活動であるが、都市の人々を受け入れる側の農山村等の地域や人々にとっても、所得機会や雇用の増大が伴

う、元気で誇りある地域づくりに大きな効果を持つ取組である。

都市の人々が、地域の自然や伝統的な生活、文化に惹かれてやって来る。好きな人は何回も来る。時には何をしてもなく、ただその空気を吸い、ゆっくりとするためだけに泊まりに来る。そういう人々に接して、地域の人々が自分たちの住んでいる地域やそこに引き継がれてきた伝統的な生活や文化の価値に気づき、守り、育てるようになる。しかも、様々な形で収入も伴う。それが度重なれば、地域の人々の心の中に自信や誇りが生まれ、そうした人と人との交流が地域の中で大きく広がっていくことにより、人々が益々元気になり生き生きとした地域になっていく。

それが、グリーン・ツーリズムの地域づくりに与える最大の効果であり、推進する目的である。

この場合、グリーン・ツーリズムのリード役は、むしろ、地域で生活を営む住民であり、都市住民と地域住民とは互いに尊重し合い、共に学び、理解を深めていく姿勢を堅持することが大切である。

#### 【グリーン・ツーリズムを通じた農山村地域等の活性化】

- 都市住民等に対する「ゆとり、やすらぎ、いやし」の提供
- 地域に対する誇りと愛着の醸成  
(地域アイデンティティの確立  
地域らしさ、地域の自然・歴史・伝統・文化の発掘・継承)
- 地域農林業・農村の保全・育成(優れた農山村景観の保全・育成)
- 農山村地域の経済的向上
- 女性の参画、高齢者の生き甲斐創出

## 2. グリーン・ツーリズムの捉え方

### (1) グリーン・ツーリズムとは

グリーン・ツーリズムは、農山村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動で、長期バカンスを楽しむことの多いヨーロッパ諸国で普及した旅のスタイルである。イギリスでルーラル・ツーリズム、グリーン・ツーリズム、フランスでツーリズム・ベール(緑の旅行)、イタリアでアグリ・ツーリズムと呼ばれている。

日本においては、近年は、市民農園、田植え・稲刈り等農作業への参加等の農業・農村体験から、学校教育を通じた体験学習、産直等農産物の販売やふるさとまつり等のイベントまで、広く都市農村交流一般を指すことが多くなっている。

### (2) 「滞在、体験、交流そして定住」

グリーン・ツーリズムとは、訪れる側の人々から見ると自然豊かな農山村や歴史と伝統ある地域にゆっくりと「滞在」し、農作業や地域の自然、生活、文化等を「体験」し、とても大切なこととして、訪れる側と受け入れる地域の人々とのふれあい等の「交流」を楽しむ。中にはその地域に第二のふるさとを見いだし、ファンになり、幾度も足を運ぶうちに「定住」してしまう人も出てくる。こうした余暇の楽しみ方である。

グリーン・ツーリズムを分かりやすく表現すれば、「滞在、体験、交流そして定住」ということができる。しかし、その楽しみ方は決して一様ではなく、極めて多様で、個性的、個人的なものである。人それぞれの好みと受け入れる側の地域や人々の特性により、あらゆる形の楽しみ方があり得る。長く泊まって色々な体験をするパターンから、そば打ち体験や農業体験だけというパターンなど様々な形が可能であり、体験なしの滞在だけというケースも少なくない。

(3) 連携による多様なメニューの提供

受け入れる側としても、滞在、体験、交流についてその地域の自然や伝統文化に根ざしたものとなるよう工夫し、メニューを充実させることが必要である。しかし、一つの施設で滞在、体験、交流の機能をすべて備えていることは希であり、地域において、宿泊施設と体験施設、交流イベント等が様々に連携して一連のサービスを提供するということがより重要となってくる。また、農家レストランで提供される地元の食材を食べることを楽しみに訪れる人もいるだろうし、農作業体験に来た人が地域の祭りに参加したり、市町村の住民交流イベントと地域での宿泊をセットにして提供するということもある。地域全体で様々な連携を作り上げ、幅の広いグリーン・ツーリズムのメニューを提供することにより、その地域におけるグリーン・ツーリズムをより幅の広いものにすることができる。

(4) グリーン・ツーリズムのフィールド

グリーン・ツーリズム実践のフィールドは、自然に恵まれた、なつかしさあふれる風景を持つ農山村地域が中心となるが、いわゆる農山村地域のみならず、都市部においても、優れた自然を有する地域、歴史や伝統・文化などを大切に継承している地域等においても、グリーン・ツーリズムの取組は十分可能である。

つまり、県全域で、この活動にふさわしい地域、この活動を理解している人々がいる地域すべてがフィールドとなり得る。

(参考)

地域のグリーン・ツーリズム資源を活用した都市と農山村との多様な交流活動のイメージは、以下のとおりである。

多様な交流活動のイメージ

1. 3要素と連携7パターン

<b>滞在</b>	ホームステイ、民宿、旅館、コテージ、ホテル等
<b>体験</b>	農林漁業体験、ふるさと生活体験、自然とスポーツ体験等
<b>交流</b>	交流イベントと親戚づきあい ふるさとだより

~~~~~

**定住** 究極のグリーン・ツーリズム

3要素と連携7パターン

|    |   |   |   |   |   |   |   |
|----|---|---|---|---|---|---|---|
|    | A | B | C | D | E | F | G |
| 滞在 |   |   |   |   |   |   |   |
| 体験 |   |   |   |   |   |   |   |
| 交流 |   |   |   |   |   |   |   |

2. 農山村と都市との交流形態の例 (岩手県農山漁村と都市との交流推進方針(案)より)

|                       |                               |
|-----------------------|-------------------------------|
| レ<br>ジ<br>ヤ<br>ー<br>型 | 自然休養村、ペンション、体験農園、市民農園、農業体験ツアー |
| シ<br>ヤ<br>ー<br>型      | 山村留学、自然教室、修学旅行(農業体験学習等)       |
| 祭<br>縁<br>組<br>り<br>型 | 観光イベント、朝市、青空市等                |
| 根<br>お<br>し<br>型      | 姉妹提携、サミット、特別町民制度等             |
| 便<br>り<br>し<br>型      | 工芸村、芸術家村、別荘村                  |
| ふるさと保全型               | オーナー制度、ふるさと宅急便、ふるさと会員制度、産地直売等 |
|                       | 海を守るための源流植林活動等                |

以上のように、グリーン・ツーリズムの捉え方には様々な考え方があると思われるが、重要なことは、「グリーン・ツーリズム」を合い言葉に、グリーン・ツーリズムの視点で地域の活性化、地域づくりを進めていくことであり、そのためには、多種多様なグリーン・ツーリズムの形態がむしろ自然であり、地域に適合した取組を実践していくことが大切である。

### 3. 本県におけるグリーン・ツーリズムの特徴的な取組事例（主な取組の類型）

本県におけるグリーン・ツーリズムの特徴的な取組事例を整理すると、概ね以下のとおりである。

| 地域名           | 類 型                             | 内 容                                                                  |
|---------------|---------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| 片品村           | ・週末滞在型<br>・市町村全域での受入            | 民宿・ペンション等の集積があり、尾瀬に代表される豊かな自然等を活用し、農協を中心にグリーン・ツーリズムを展開               |
| 川場村           | ・交流型<br>・行政、第3セクターなどによる受入       | 豊かな自然・文化等を活用し、世田谷区との交流を基軸にグリーン・ツーリズムを展開                              |
| 新治村           | ・体験資源こだわり型<br>・行政、第3セクターなどによる受入 | 豊かな地域資源を活用し、集客施設（たぐみの里）を中心としたグリーン・ツーリズムを展開                           |
| 甘楽町<br>秋畑那須地区 | ・都市近郊日帰り型<br>・集落などの限定地域による共同受入  | 棚畑・ちいじがき等の優れた景観、伝統芸能等の地域資源を活用し、蕎麦オーナー制の実施など、地区住民が主体となってグリーン・ツーリズムを展開 |
| 奥多野<br>地域     | ・体験資源こだわり型<br>・有志グループによる共同受入    | 奥多野の豊かな自然・文化等を活用し、地元の農家などの有志が集まりグリーン・ツーリズムを展開                        |

#### （参考）

現在、日本各地で行われているグリーン・ツーリズムのタイプ及び受入のタイプは、概ね次のように分類できる。（「地域ぐるみグリーン・ツーリズム運営のてびき」より（都市農山漁村交流活性化機構））

#### ）グリーン・ツーリズムのタイプ

都市近郊日帰り型

週末滞在型

交流型（川場村と世田谷区、甘楽町と北区 等）

体験資源こだわり型（こだわり、特徴をもった活動）

・客層（ターゲット）明確化型

・体験資源こだわり型

#### ）受入のタイプ

個人農林漁家による受入

集落などの限定地域による共同受入

有志グループによる共同受入

行政・第3セクターなどによる受入

市町村全域での受入

民間事業・企業による受入

#### 4. グリーン・ツーリズム推進の基本目標

##### (1) 基本目標

県内各地域の備えている条件は様々であり、県内におけるグリーン・ツーリズムの取組も多種多様であることから、一律な手法や考え方ではなく、地域に根ざしたグリーン・ツーリズムを推進していくことが大切である。

従って、各地域が現在の取組を一層充実させ、あるいは新たな取組を開始し、地域の個性を活かしながら、地域の特性に応じた、地に足の付いた背伸びしない特徴的なグリーン・ツーリズムの取組を行っていくことが必要である。

また、農山村地域の風景、農山村地域の自然・歴史・伝統・文化などは、私たちに「うるおい」や「やすらぎ」を感じさせる「原風景」「心のよりどころ」であり、貴重なグリーン・ツーリズム資源であるが、それと同時に、地域に暮らす人々が織りなす「地域の姿」そのものである。

従って、地域における具体的なグリーン・ツーリズムの取組においては、地域住民の理解と合意を大切にしながら、長期的な視点に立って、グリーン・ツーリズムを進めていくことが求められる。

グリーン・ツーリズムの推進により、「地域の良さ」「地域らしさ」を発掘し、積極的に保全・育成し、次代に継承していくことが重要である。

##### 基本目標

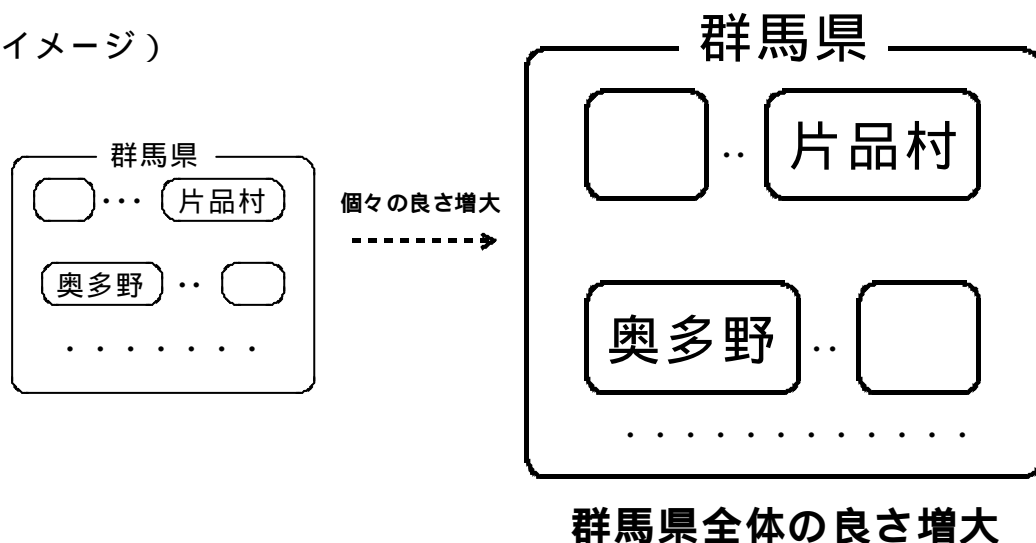
#### 【地域の個性を活かした、地域の特性に応じたグリーン・ツーリズムの推進】

##### (基本的考え方)

各地域が自らの地域を見つめ直し、地域の個性を活かしながら、地域の特性に応じた、地に足のついた背伸びしない特徴的なグリーン・ツーリズムの取組を行い、各地域の良さが高まることにより、群馬県全体の良さが高まる。

##### (各地域の総体が群馬県の姿)

##### (イメージ)





(2) ぐんまらしいグリーン・ツーリズムの推進に向けて

ぐんまらしいグリーン・ツーリズムの推進に向けては、次のことに留意することが必要である。

グリーン・ツーリズムが所得機会や雇用の増大等の効果に留まらず、地域づくりにつながることを確認する。

それぞれの地域の良いところ、個性の再発見と将来への継承から出発する。

それぞれの地域や人々に合った個性ある多様な展開を大切にする。

今あるもので長く続けられるもの、生活としてやってきたものを大切にする。

(地域でとれる食材、地元の人が食べているものを提供する。)

(湯治等を日本的なグリーン・ツーリズムの原型、スパツーリズムとして提唱する。)

滞在、体験、交流の地域内連携を大切にする。

施設の清潔感を大切にする。しかし、あまり改造しすぎない。

自分から自然に群馬の良さを言いたくなるような群馬人になる。

(「いやー、ありゃー大したことねんさねー」とつい謙遜してしまう群馬人から「ここんところが良んさねー」、「あれ食ったことあるかい?」とついお勧めしてしまう群馬人)

自然や環境、伝統文化等を大切にする群馬人になる。

(景観の保全に気を遣い環境美化や祭りなどの地域活動に積極的に参加する群馬人。良いものを子や孫の世代に残し引き継ぐ群馬人。)

恵まれた立地条件・交通基盤を最大限活用する。

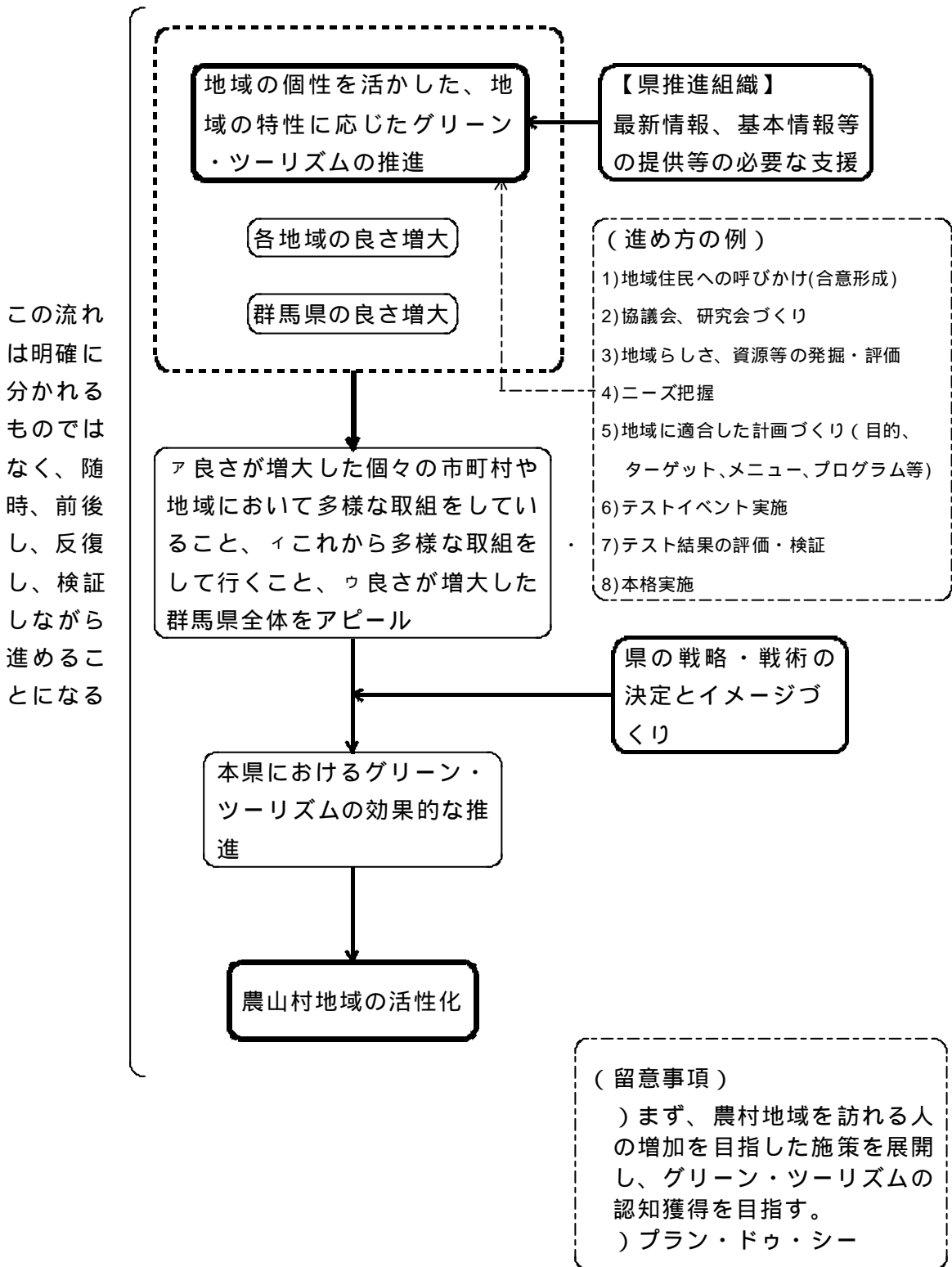
(首都圏で「午前中に着けるグリーン・ツーリズムの里」をPR、定着させる。)

(首都圏で農山村回帰、自然回帰の受け皿となる。)

# ぐんまらしいグリーン・ツーリズムの実現に向けて

## 1. グリーン・ツーリズム推進フロー

本県におけるグリーン・ツーリズム推進のフローは、以下のとおりである。



## 2. 大きな潮流にしていくために

前述したとおり、本県においても、グリーン・ツーリズムの様々な取組が見られるところであるが、それを大きな潮流（県民運動）にしていくためには、

グリーン・ツーリズムの認知度向上

グリーン・ツーリズムに関わる人材育成、確保

本県グリーン・ツーリズム関係者のネットワーク化

多様なグリーン・ツーリズムビジネスの育成

地域におけるグリーン・ツーリズム受入態勢、連携システムづくりの促進

構造改革特区を活用したグリーン・ツーリズムの推進

情報の発信と収集のためのシステムづくり

豊かな景観と伝統文化等の保全、継承

グリーン・ツーリズム関係者と県・市町村、学校教育関係者、県民が一体となった活動の展開

などの視点を踏まえ、具体的な施策を展開していくことが必要である。

## その他

### 1. 検討会での議論の主なキーワード（各委員の意見等から）

本検討会での過去3回の議論を踏まえ、委員意見等からグリーン・ツーリズム推進のためのキーワードを整理すると、次のとおりである。

#### グリーン・ツーリズム施策の目的等

- ・グリーン・ツーリズムを通じて地域が生活できるだけの県施策必要。
- ・グリーン・ツーリズム推進に係る農山村振興構想はどうなっているのか。地域の持ち味、特性を把握しないと議論は的にならない。
- ・持続できる多面的な機能の確保が大きい。奥多野は所得低く後押し必要。
- ・群馬での多面的な機能の確保が大きい。奥多野は所得低く後押し必要。
- ・何を目的にグリーン・ツーリズムを推進しようとしているのか見えてこない。地域振興ではないか。
- ・中山間地域の課題解決のための一手段。地域の課題を把握することが必要。
- ・グリーン・ツーリズムを一口のツパの定義そのまま用いて良いか疑問。
- ・地域が元々取り戻すための交流を通っていく必要がある。
- ・どっしりとした側面は観光とグリーン・ツーリズムを区別してはいない。分ける必要はない。
- ・グリーン・ツーリズムが市町村に認知されておらず、施策として重要なことを伝える必要もあつた。
- ・市町村にも必要だが、群馬がグリーン・ツーリズム県であることを知らしめることが必要。

→ 地域の活性化  
経済的向上、地域で生活できるため

地域振興  
情報の収集及び提供

#### 再発見

- ・地域の良さを再発見することが必要。
- ・地域の人から他人に紹介したいものを発見、改めて地域を見ること大切（11/22～文化観光社）。
- ・自分たちの地域の資源発掘（企画を売る側として考えて）。
- ・個性の必要、地域の人達が発見し、真剣に考えることが必要。
- ・片品村で、入金をかけない自然なものを皆で見出すこと必要。
- ・農河野側長の話から）
- ・地域に自信がないから認めてもらってはじめて目覚める。
- ・地域の再発見の動きがないとうまくいかない。
- ・地域をもっと愛することが必要。食文化を発見することもグリーン・ツーリズムの目的である。
- ・強みを見極め、単品でなく連動したプログラムづくりへ。

→ 地域らしさ、地域の良さを再発見  
地域の人自身による活動

地域資源の発掘、地域外からの資源の指摘

#### 個性とニーズ

- ・ニーズは変化し、そのニーズに地域が振り回されているのではないか。
- ・口カルで地域の個性、特性必要。ニーズより生活としてやってきたことが大切。
- ・地域の個性主張が必要。
- ・グリーン・ツーリズムのニーズは増えている。市場を選ぶ。
- ・地域の持ち味、特性を把握しなければ的確な議論にならない。
- ・金太郎アメではダメ。
- ・ニーズに迎合する必要はないが、ニーズを取り入れ、選択していくこと大切。
- ・受入側のことは1/3でニーズに2/3配慮する必要あり。
- ・ニーズの先を讀まないと負けてしまう。
- ・ニーズに合わせることは持続的にならない。ニーズではなく売り物、続けられるもの必要。
- ・ニーズより生活としてやってきたことが大切。昔の生活が売れる。

→ 地域の個性が大切  
ニーズ把握

地域の持ち味・特性の把握  
ニーズにふりまわされない

## ぐんまの資源、売り物

- ・何も無いが田園風景、人の優しさがあり、もう一度来たいと感じさせる。(嫁いでくてもいい)。
- ・群馬の自然や良さを売る。体験にこだわらず群馬の自然を楽しむことで良いので群馬の自然を宿はグリーン・ツーリズムの一部で良い。滞在なくとも良い。歩
- ・素朴な地味な文化がお金になるのが、難しさがある。奥多野には魚つりと歩
- ・伝統文化に共鳴できる人が客になる。ファンを育てる。(箱物、安易なものはダメ)
- ・高齢者から伝統文化等教わり、次世代に伝えていきたい。昔話聞くことも良い。
- ・住んでいて大食文化、地元の人今では宿の自慢になった。
- ・自生するより生活今50万人来訪(554:1万人)。野仏峠スタンプラリーが始ま
- ・たり606人のたくみ(伝統工芸)開店。24人に増えている。
- ・クラウドのガルトンH3~一農家一族の受入で一連の米作り体験実施中。第
- ・二のものふるさとして進められている。
- ・何も無いことより、そこにあるものを味わいに来る。来るだけでストレス解消に
- ・何なる。
- ・人と人のつながり、人情、生活、ふれあいが大事。守ってきたものを見せること。
- ・「でっかま」はじめました。
- ・「スパ・ツーリズム」はどうか。自炊、湯治、保養、交流。グリーン・ツーリズム
- ・の原型。
- ・温泉地は、緑あり川の水もきれいで、人情、街並み、湯量も豊富。

ぐんまの自然のすばらしさ 地域の伝統文化の保全・継承  
 人情、生活、ふれあい 温泉

## 体験

- ・奥多野には魚つりと歩くことと呼ぶグリーン・ツーリズムの原型ある。
- ・連携したプログラムづくり必要(単品でなく)。
- ・s60~6人のたくみ(伝統工芸)の店開店し、体験型スタート。今24人、
- ・来訪者50万人の長期体験の受皿必要。
- ・何も無くとも良い。(饅頭のために東京から来る人もいる)。
- ・滞在しなくても良い。(饅頭のために東京から来る人もいる)。
- ・2時間滞在でも良い。生協のグリーンライフと連携しており、今年238家族、
- ・864名来村。
- ・一農家一族の受入で一連の米作り体験実施している。
- ・7パターンEFGの相互協力できる・片品は体験民宿中心にグリーン・ツーリズムを展
- ・開している。ちが東京から来る。日常の暮らしを体験してもらっているが、榛名湖
- ・や温泉に行きたがるわけでもなく私の家でホントに良く寝ている。(倉淵村にI
- ・ターンの鈴木さんの話)
- ・体験民宿はグリーン・ツーリズム一部で良いのではないか。
- ・何かより、そこにあるものを味わいに来る。体験にこだわらない方が良い。)

地域内で連携したプログラムづくり 地域の自然、生活等の体験求めている  
 農業体験等にこだわらなくていい

## 滞在

- ・清潔感が大切。民宿よりペンションが好まれている。安いだけではダメ。
- ・清潔感ある民泊の農家は原則として改造しない(トイレ、水回り、エアコンくらい)
- ・安心院では自炊の湯治という独特の「滞在」がある スパ・ツーリズム
- ・日本には自営民泊もあり18,000人の収容力がある。
- ・片品には村営民泊もあり18,000人の収容力がある。
- ・たくみの里に50万人来るが民宿・温泉地あるのに日帰り客中心。それが課題。
- ・長期体験の受皿必要。(JR系のホテルファミリーオも進出)
- ・国の施策は「滞在型」である。
- ・日帰り型もグリーン・ツーリズムに位置付けることが必要。
- ・7パターンEFGの相互協力できる。
- ・滞在しなくても良い。(饅頭のために東京から来る人もいる)
- ・2時間滞在でも良い

清潔感が大切 自炊の湯治という独特の「滞在」  
 日帰り型もグリーン・ツーリズムに位置付け

## 定住

- ・有機野菜づくりやりたくて来た。
- ・農業を通じた交流から定住者が出てきた。Iターン 18組40数人。
- ・甘楽富岡農協が東京のNPOと連携し「ふるさと回帰支援」の動きあり。

→ 農業を通じた交流  
ふるさと回帰

## その他

- ・地域を引っ張るリーダーの育成が必要。
- ・県、市町村担当者はもっとグリーン・ツーリズムを勉強することが必要。
- ・県が同好会つくり海外研修を行うなど。
- ・県内の宿泊施設全体の把握が必要。
- ・倉浜通はグリーン・ツーリズムの健康増進効果の実証事業を国とやっている。
- ・グリーン・ツーリズムブランドのロゴマークづくり。
- ・景観より風景という言葉の方が残しやすい。
- ・7パターンで相互協力できる。
- ・長野県はPR等の戦略がしっかりしている。

→ 人材育成  
現状把握

## 2. 平成15年度農林漁業体験民宿に関するアンケート調査結果にみるグリーン・ツーリズム推進の問題点等

農林漁業体験民宿の実態把握及び本検討会での検討に資するため、平成15年7月に実施した「農林漁業体験民宿に関するアンケート調査」の結果から問題点等を整理すると、概ね次のとおりである。

### (1) 地域内連携の確保

非登録民宿が多数あることへの配慮必要      地域リーダー等の育成

### (2) 既存制度等の課題

規制緩和に関する情報提供等      必要に応じ民宿登録制度のあり方の検討

### (3) PR及び行政の支援

GTの積極的な普及      非登録民宿が多数あることへの配慮必要

きめ細かい宿泊客数の増加対策      地域の魅力のPR

施設及び体験メニューのPR

### (4) 農林漁業体験民宿の質の向上

魅力的な体験メニュー・プログラムの開発

利用者ニーズに適合した営業展開      地域内の連携確保

体験指導者等の育成      非登録民宿が多数あることへの配慮必要

### (5) 具体的な推進施策の検討

グリーン・ツーリズム推進戦略等の構築

市町村による積極的なグリーン・ツーリズム推進

市町村支援のためのグリーン・ツーリズム推進組織の検討

農山村景観（伝統文化等）の保全・形成

非登録民宿が多数あることへの配慮必要      規制緩和に関する情報提供等

### (6) ニーズの把握

観光客のニーズ把握

体験参加者のニーズ把握

## 参考

### (1) 群馬県新グリーン・ツーリズム推進検討会の設置及び運営に関する要領

#### (設置)

第1 健康的でゆとりある生活、やすらぎ、自然を求めるトレンドを背景に都市住民のグリーン・ツーリズムに対する願望、ニーズが高まるとともに、世代ごとの滞在・体験・交流に関する目的や内容が多様化しており、また、農山漁村部では、グリーン・ツーリズムの推進による地域活性化への期待が増大するとともに、地域ぐるみの自発的取組が見られる。このような中で、都市住民の多様なニーズにきめ細かく対応するとともに、農山漁村資源や農林水産業等と連携・調和した地域ぐるみのグリーン・ツーリズムの総合的な推進が求められている。

このため、本県におけるグリーン・ツーリズムの推進方策等について検討し、農山漁村の共生・対流の実現に資することを目的として、群馬県新グリーン・ツーリズム推進検討会(以下「検討会」という。)を設置する。

#### (目的)

第2 この要領は、検討会の設置及び運営に関し必要な事項を定める。

#### (構成)

第3 検討会の構成は別表に掲げる者をもって構成する。

#### (検討会の所掌事項)

第4 検討会は、次の事項を所掌する。

- (1) 本県におけるグリーン・ツーリズムの推進方策
- (2) その他グリーン・ツーリズムの推進に関し必要なこと

#### (会議等)

第5 検討会に座長を置く。

- 2 座長は、土地改良課長をもって充て、検討会を主宰する。
- 3 検討会には、必要に応じ事案に係る者を出席させることができる。
- 4 検討会は、必要に応じ随時開催するものとする。

#### (庶務)

第6 検討会の庶務は、農政部土地改良課に置く。

#### (その他)

第7 この要領に定めるものの他、検討会の運営に必要な事項は、それぞれ検討会で別途協議のうえ定める。

#### 附 則

この要領は、平成15年10月21日から施行する。

(別紙)

群馬県新グリーン・ツーリズム推進検討会委員名簿

| 区 分          |             | 氏 名                | 所属・職名等             | 備 考       |
|--------------|-------------|--------------------|--------------------|-----------|
| 委<br>員       | 農協関係者       | 永井 光雄              | 片品村農業協同組合開発部次長     |           |
|              | 農林漁業体験民宿業団体 | 高橋 清               | 群馬県農業協同組合中央会農業対策部長 |           |
|              | 農業体験民宿業者    | 星野恵美子              | 旅館 みやま             | 地域興しマイスター |
|              | 観光関係者       | 吉田 茂作              | (社)群馬県観光協会常務理事     |           |
|              |             | 本間 昇               | 近畿日本ツーリスト(株)前橋支店長  | H15.12まで  |
|              |             | 遠藤 康弘              |                    | H16.1から   |
|              | 学識経験者       | 西野 寿章              | 高崎経済大学地域政策学部教授     |           |
|              | 地域興しマイスター   | 中嶋 琢司              | 元JR高崎支社営業開発部長      |           |
|              |             | 高木 響正              | 事業戦略構築研究所AX代表      |           |
| 県外からの定住者     | 中村 文彦       | グリーン・ツーリズムアドバイザー   | GTインストラクター         |           |
| グリーン・ツーリズム関係 | 中塚 時江       | 奥多野グリーン・ツーリズム研究会   |                    |           |
|              | 角田 早苗       | 赤城村農村女性会議会長        | 村議会議員              |           |
| 幹<br>事       | 教育関係者       | 飯野 眞幸              | 学校指導課長             | 県         |
|              | 行政関係者       | 桑原 和一              | 片品村経済課長            | 市町村       |
|              |             | 山田 則男              | 倉淵村農政課長            | 〃         |
|              |             | 石坂 一美              | 新治村ふるさと振興課長        | 〃         |
|              |             | 唐沢 徹               | 地域創造課長             | 県         |
|              |             | 関 卓榮               | 観光物産課長             | 〃         |
| 上原 訓幸        | 土地改良課長      | 〃                  |                    |           |
| 事務局          | 松井 剛        | 土地改良課中山間振興グループリーダー |                    |           |
|              | 桜井 信二       | 土地改良課中山間振興グループ担当   |                    |           |



## ( 2 ) 群馬県新グリーン・ツーリズム推進検討会での検討経緯

### 第 1 回 ( 平成 1 5 年 1 1 月 2 0 日 )

#### 1 . 前提条件等の整理

グリーン・ツーリズム施策の動向について

都市と農山漁村の共生・対流への取組に関するアンケート調査結果について

農林漁業体験民宿に関するアンケート調査結果について

その他

#### 2 . 本県におけるグリーン・ツーリズム推進にあたっての課題等について

### 第 2 回 ( 平成 1 6 年 1 月 2 0 日 )

#### 1 . グリーン・ツーリズム推進にあたっての課題等の整理

#### 2 . グリーン・ツーリズム推進組織について

#### 3 . グリーン・ツーリズムの推進フレームについて

#### 4 . その他

### 第 3 回 ( 平成 1 6 年 3 月 2 6 日 )

#### 1 . ぐんまらしいグリーン・ツーリズムのあり方について

#### 2 . その他